

『わたしにとどまりなさい』 ヨハネの福音書 15章4～6節 2017.1.8(聖日礼拝説教より)

『わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。』 ヨハネ15:5

①枝は実を結ぶことが期待される！ 1～16 節に「実を結ぶ／実が残る」が9回。神様の「結実」へ期待感が窺われる。この世の「結実」は、合格・結婚・仕事の成功など「自己満足な結果を得ること」。しかし聖書の「結実」は、人が神に喜ばれて生き、その御愛や慰めをこの世に現すこと！その実は、あらゆる患難の中でこの世を照らす！

②枝が実を結ぶために大切なこと！ ぶどう栽培の大敵は「ブドウトラカミキリ」。樹皮の下に潜んで成長して枝の芯を食い荒らす！イエス様にとどまるとは、受洗！教会員！礼拝出席！…という外見上のことではなく**人格的につながること**。「私の罪のために十字架に架かれ、私を自己中心から救ってくださる方」として個人的に心に迎え「私とあなた」の関係になり、日々聖書を通して御声に聞き従う！「たとえ死の陰の谷を歩むとも恐れない。あなたが私とともにおられます。あなたは敵の前で私のために食事を整え…(詩篇 23:4～5)」。信仰とは、『あなたは私の神、私はあなたのものです』と告白して**イエス様と相思相愛になること(4～5 節)**。『わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります／人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら』とある。神様は、絶えず私たちにラブコールを送られる。『見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする(黙示録 3:20)』。イエス様の御声を聞き、心のドアを開いてお迎えする時、神とあなたは両思いへ。神様がくださる「いのち」とは、神様との関係(交わり、愛し合う関係)のこと！神と人、人と人は、互いに愛し合ってこそ生きる！(「人は愛されて安心し、愛して満足する！)自然界に存在するもの全てには『関係性』がある。無駄なものはひとつもなく、100%リサイクルして命が豊かに溢れる！人間界は？ちょっと気に入らなければ、『関係ない／ほっといて…』と関わりを拒否！その心に「自己虫」が育ち、やがて心を食い荒らす。

★今年、『わたしを離れては、あなたがたは何もすることができない(5 節)』との主の御声を聴き、主の助けを受けて、互いの関係を親しく・豊かに・健全に回復されたい！